

# ともに語る



2026年3月30日発行

## 本校「センター的役割」のまとめ

「ともに語る」地域版の97号は、今年度の「帯広養護学校のセンター的役割」を振り返ります。今後も各関係機関と連携をしながら、地域における特別支援教育のセンター的機能の発揮に努めていきます。

1 巡回相談（年1回程度、本校からコーディネーターを派遣し、助言をします。）

(1) 実施園、校数（単位：園、校）

	幼保	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
パートナーティーチャー派遣事業	0	7	1	1	0	9
地域支援	0	0	0	0	0	0
合計	0	7	1	1	0	9
教育支援委員会	帯広市5回 音更町2回 浦幌町1回					
特別支援児保育巡回指導	帯広市4回					
専門家チーム	帯広市1回（小学校1回）					

(2) 主な助言内容

ア 小学校～コミュニケーションの指導、教師の指導体制など支援のあり方、各教科や自立活動における具体的な支援方法、学習環境の設定、家庭との連携、校内での情報共有や教師間の連携のあり方、学校体制づくり、オンラインでの学習について助言しました。

イ 中学校～自立活動における具体的な支援方法、コミュニケーションの指導、障がいの特性に応じた支援について助言しました。

ウ 高等学校～校外学習など行事の参加方法、具体的な支援のあり方について助言しました。

(3) 傾向

今年度も引き続き、十勝の大きな傾向や課題として以下の2点が考えられました。

ア 就学や進学における学びの場の選択（適正な就学）について

イ 学校内における特別支援教育の校内体制づくり、家庭との連携について

2 教育相談（就学、進学、高等部受検や転学に関わる相談、また、発達に関する相談などです。）

(1) 実施件数（のべ数、単位：件）

	就学前	小学生	中学生	高校生	合計
入学相談	27	11	4	32	74
発達相談	0	0	0	0	0
合計	27	11	4	32	74

(2) 相談内容

ア 入学相談～本校小学部・中学部に新・転入学、高等部に入学を希望される人を対象とする「本校入学に関わる教育相談」では、本校の説明、児童生徒の様子の把握、体験学習（高等部新入生・転入学希望のみ）を行っています。

イ 発達相談～発達について気になる幼児から高校生までを対象に、対象者の様子を把握し、特別支援に関わる情報提供等を行っています。

(3) 本校の入学に関わる教育相談について

ア 小・中学校に在籍されている方は、学校からの依頼文と教育相談受付票が必要になります。

イ 本校の教育相談は、例年6月中旬から2月中旬の期間で行っています。年長、小6、中3は12月初旬まででお願いしております。例外はありますが、基本的にこの期間内に実施できますようご協力をお願いいたします。 ※ 詳細は、本校ホームページをご覧ください。

# 居住地校交流のまとめ

本校小・中学部在籍の児童生徒が、自分が住んでいる地域の公立学校と交流を行う取組が「居住地校交流」です。今年度は、以下の表のとおり実施しました。

小学部低・中学年ブロックで15名、中学部で3名の児童生徒が直接交流を行い、実施に至るまでには事前に児童生徒の実態について情報共有を丁寧に行い、実態に合わせた交流内容を計画します。内容については、朝の会から給食、帰りの会まで丸一日交流をする、図画工作や音楽、体育、生活単元学習などの教科の限られた時間で交流をする、など児童生徒の実態によって様々でした。

交流後に初めて交流を受け入れていただいた学校から「実際に児童と会ってみて、好きなことがわかったので、次年度以降はもっと楽しんで貰える内容を考えたい」、昨年度以前から交流を継続していただいている学校からは「久しぶりに会えてうれしそうだった」などの温かい感想をいただきました。

居住地校交流は居住している校区の学校で同年齢の児童生徒と関わることで、児童生徒の経験を広げ、社会性や適応力を高めたり、今後の社会生活を支え合う地域の仲間としての基盤をつくったりする機会でもあります。来年度も本校と居住地校の双方の児童生徒にとってお互いが学び合う、自立に向けた大切な時間となることを願っています。(文責：浅野)

交流校名		人数(合計)	内容
帯広市立	森の里小学校	2名	ア 直接交流(訪問して交流) (ア) 通常学校で音楽や体育などの授業を一緒に受ける。 (イ) 特別支援学級の朝の会や自立活動、音楽や体育と一緒に参加する。 イ 間接交流(訪問しないでの交流) (ア) 手紙のやりとりをする。 (イ) 通信などのやりとりをする。
	緑丘小学校	1名	
	稲田小学校	1名	
	明和小学校	1名	
	若葉学校	1名	
	明星小学校	1名	
	帯広第二中学校	1名	
	翔陽中学校	1名	
音更町立	鈴蘭小学校	2名	
	下音更小学校	1名	
	木野東学校	2名	
	共栄中学校	1名	
幕別町立	札内北小学校	1名	
	幕別小学校	1名	
池田町立	池田小学校	1名	

## 書籍の紹介 「コグトレ実践集 子どもの特性に合わせた導入事例」

(監修：一般社団法人日本COG-TR学会、編集 宮口幸治 高村希帆 井阪幸恵 閑喜美史) 三輪書店

パートナーティーチャー派遣事業では、様々な子どもたちの発達や学習の相談を受けています。今回紹介するコグトレの実践は、実際に学校現場で導入しているケースがあり、今回は関連する実践集を掲載します。

(以下は、本書のまえがき・あとがきより抜粋、引用)

「コグトレが教育分野を中心として幅広く認知し始めました。(中略)…子どもたちが学校や社会で困らないために、3方面(社会面、学習面、身体面)から支援するための包括的プログラムです。」

「医療少年院にて少年たちの『認知機能の弱さ』と『適切な支援を受けてこられなかった環境的背景』に着目し、認知機能を高めるためのプログラムとして開発されたコグトレ。少年院だけにとどまらず、現在、さまざまな領域の現場で使用され、広まっております。(中略)…本書では、さまざまな領域でコグトレに取り組んでくださっている先生方に、コグトレを用いるにあたり、工夫の仕方・子どもの変化・実施ポイントなど、いろいろな視点で現場の様子を紹介していただきました。」

今年度地域版の最終号となりました。村上、下津が担当しました。1年間、ありがとうございました。